



SCB

ニュース&トピックス

No.2024-62

(2024.8.8)

信金中央金庫 地域・中小企業研究所

上席主任研究員 井上 有弘

03-5202-7671

s1000790@FacetoFace.ne.jp

データで読み解くこれからの信用金庫経営 (9) コンビニ ATM

— キャッシュレス化とコンビニ ATM 増加を前提とした ATM 戦略を —

ポイント

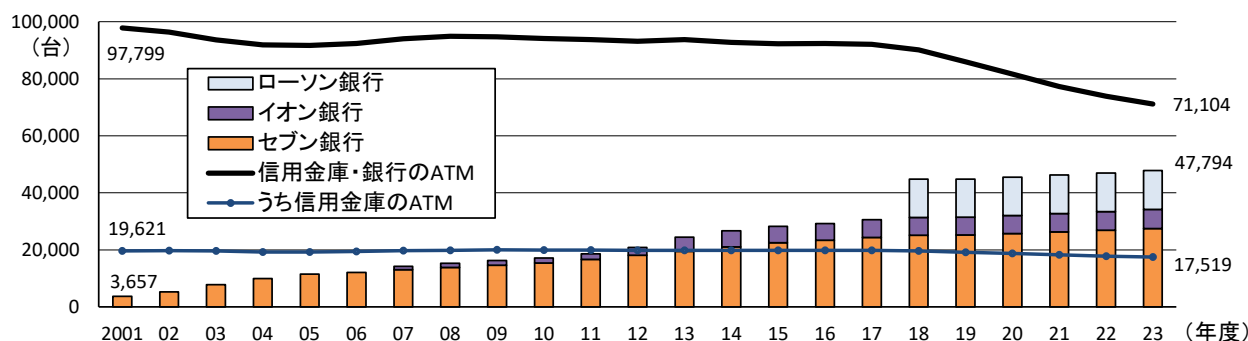
- 流通系銀行(セブン銀行、イオン銀行、ローソン銀行)の ATM は、2001 年度には 4 千台に満たなかったが、23 年度には 4.8 万台に増加している。
- この間の信用金庫の ATM 台数の推移をみると、店舗内 ATM は 17 年度から、店舗外 ATM は 18 年度から減少し、23 年度には計 17,519 台にまで減少した。
- 信用金庫においては、コンビニ ATM 増加など利便性低下が抑制される環境にあることを前提に、長期的な視点から ATM の存廃、運用効率化を行っていく必要があるだろう。

1. 流通系銀行の ATM

本稿では、コンビニエンス・ストアやショッピング・センター等に設置された流通系銀行の ATM と、信用金庫の ATM の設置台数の推移を確認する。流通系銀行とは、自グループの小売店舗内に設置した ATM や銀行店舗を主な顧客チャネルとする銀行である。具体的には、セブン銀行、イオン銀行、ローソン銀行の 3 行を対象とする¹。

流通系銀行の ATM は、2001 年度には 4 千台に満たなかったが、23 年度には 4.8 万台に増加している(図表 1)。一方で、信用金庫と銀行(都市銀行、地方銀行、第二地方銀行)の ATM の合計台数は、同じ期間に 9.8 万台から 7.1 万台に減少している。

(図表 1) 流通系銀行と信用金庫・銀行の ATM 設置台数の推移



- (備考) 1. 流通系銀行各行のディスクロージャー資料、全国銀行協会『決済統計年報』『業態別 CD・ATM 設置状況等』より、信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成
2. 流通系銀行は各年度末の台数、信用金庫・銀行は各年度9月末の台数
3. ローソン銀行は、2018 年度の銀行開業時に自グループの ATM 運営会社から ATM 事業を承継している。

01 年 5 月のアイワイバンク銀行(現セブン銀行)の開業以降、流通系銀行が、利用者の生活動線にあるコンビニエンス・ストアやショッピング・センター等に ATM の設置を急速に進めてきた。01 年度以降の増減をみると、信用金庫や銀行の ATM 減少台数よりも、流通系

¹ セブン銀行、ローソン銀行は収益のほとんどが ATM 運営事業からなるのに対して、イオン銀行は住宅ローンを主体とした融資業務からの収益が過半を占めている。なお、ネット専門銀行を含めた新しい形態の銀行の概要については、金融調査情報 No. 2023-12「インターネット銀行等の動向」(2024 年 1 月) (<https://www.scbri.jp/reports/finance/20240105-post-473.html>) を参照

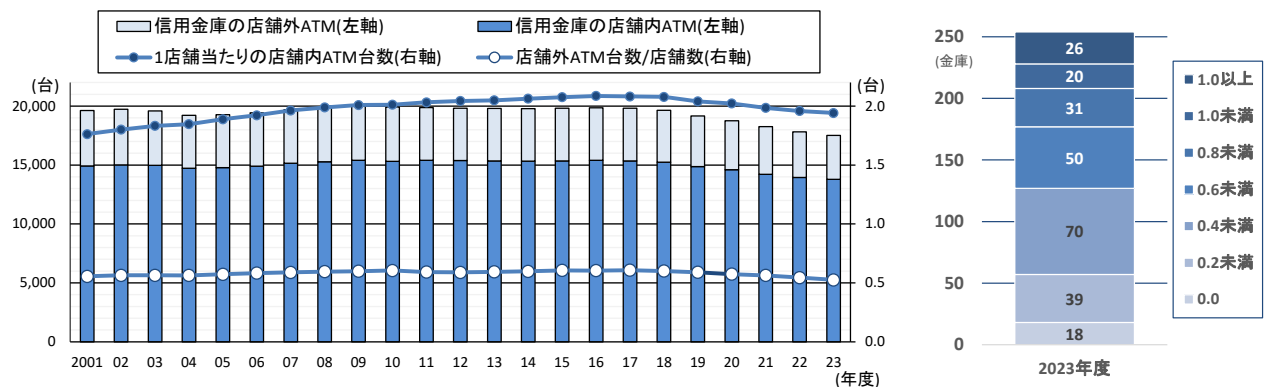
銀行の ATM 増加台数の方が大きい。利用者の視点からは、現金の払出や預入、電子マネーへのチャージ等ができる「キャッシュポイント」が増え、利便性が高まったことになる。

2. 信用金庫の ATM

この間の信用金庫の ATM 台数の推移をみると、店舗内 ATM は 17 年度から、店舗外 ATM(店舗外 CD 等)は 18 年度から減少している。銀行より減少ペースは緩やかなものの、23 年度には店舗内 ATM が 13,791 台、店舗外 ATM が 3,728 台の計 17,519 台にまで減少した(図表2)。

また、1 店舗当たりの店舗内 ATM は、ピークの 2.09 台(16 年度)から 23 年度には 1.94 台となり 2 台を下回った。「稼働率が低くなった店舗内 ATM を各店 1 台にしてい」くとする信用金庫もあった。店舗外 ATM について、店舗外 ATM 台数/店舗数を算出すると、23 年度には 0.52 台にまで低下している。平均的には店舗数の半分程度の台数の店舗外 ATM があるといえる。ただし、信用金庫によるばらつきもあり、店舗数以上の店舗外 ATM を有する信用金庫が全 254 金庫中 26 金庫あるのに対して、店舗外 ATM をもたない信用金庫も 18 金庫ある。「店舗外 ATM の全廃に向けて ATM の更新を見送っている」とした信用金庫もあった。

(図表 2) 信用金庫の ATM 設置台数の推移と「店舗外 ATM 台数/店舗数」別の信用金庫数(2023 年度)



(備考) 1. 全国銀行協会『決済統計年報』『業態別 CD・ATM 設置状況等』等より、信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成
2. 店舗内 ATM は「信用金庫設置 ATM 台数-店舗外 ATM(店舗外 CD 等)台数」として算出(いずれも各年度9月末現在)

3. コンビニ ATM の増加等を前提とした ATM 戦略を

ATM の保守管理費用などコスト削減の観点から、24 年 7 月の新紙幣発行のタイミングで一部 ATM の更新を見送った信用金庫もあるとみられる。一方、利用者の視点からは、キャッシュレス化により ATM の利用頻度が低下し、手数料負担は生じるものの代替手段となる流通系銀行の ATM が増加している。信用金庫においては、利便性低下が抑制される環境にあることを前提に、長期的な視点から ATM の存廃、運用効率化を行っていく必要があるだろう。

以上

※信用金庫業界の各種データは、信金中央金庫 地域・中小企業研究所ホームページの「信用金庫統計」(<https://www.scbri.jp/publication/toukei/>)に掲載されています。併せて、ご活用ください。

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断でお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。